

# 学生の感想から見る体育授業の課題

—2022年度 日本福祉大学「スポーツと文化」テスト&レポートから—

牧野満

2022年度「スポーツと文化」の講義では、14回に渡って右表のようなテーマで授業を行ってきました。

最終日は、評価テストの日でした。テストの設問の中に、以下の内容の項目を設け、体育授業に対する疑問や課題を述べてもらいました。以下、学生の感想を課題別にまとめました。

※対象は、子ども発達学科・学校教育専修 保育・幼児教育専修=幼児教育を目指す学生(幼保)68名、教育・心理学部(子ども発達学部)心理学部小学校教員や心理士を目指す学生(学校・心理)55名。

	テーマ	教材	体育・スポーツの話題
1	スポーツとは何か?	テニスの始まり	
2	スポーツとルール	水泳(近代泳法)	ターザン
3	日本文化の独自性	水泳(日本泳法)	なだしお事件
4		相撲	犬追物
5	イギリス生まれのスポーツの特質	足で蹴るスポーツ、民俗フットボール	つなひき
6		フットボールの発展史	
7	アメリカ生まれのスポーツの特質	バスケットボールの発展史	カールルイス
8	スポーツの日米比較	野球とベースボール	バットの話
9			
10	スポーツと女性	人見絹枝	鉄棒の歴史
11			跳び箱の歴史
12	スポーツと人権	孫基禎	体育座り
13			組体操
14	障害者とスポーツ 隣接のまとめ	車いすバスケットボール	集団マット
15	評価テスト		

## 設問

これまで受けてきた体育授業(幼保、小、中、高)を振り返った時、体育授業の課題(おかしい、疑問に思ったこと)について、具体的な例を挙げて述べましょう。また、それを改善する手立てについてあれば、その考えを述べましょう。

## <考察>

結果を集計したものが右表になります。自由記述なので、課題だと思ふ教材を挙げる学生や、教師の指導を挙げる学生、或いは、両方に共通することなど様々でしたが、大きく「体育教材・体育的行事」「教師の指導に関わる」の2つに大別しました。

・教材では、予想していた通り、冬期の駆け足、マラソンに疑問を抱く学生が多いようです。また、服装についても、寒いから厚着をするなどして自己管理するべきだという尤もな意見が見られました。

・水泳の記述が多いのは、講義の中で、学校現場について習熟度別指導が一般的であることを取り上げたことで、これに関する記述が多かったよう

です。能力別、習熟度別指導がおかしいという記述が多く見られました。泳げなくて泳力別に分けられたグループで泳ぐ水泳の辛い経験を述べていました。また、泳げる上手な子どもにとっても「教師から何も教えられなかった」と、習熟度別指導について批判的な感想を述べています。しかし、一方では、一部に、「習熟度別指導は自分の能力に応じたグループだと安心して授業が受けられる」「泳げる子どもにとって退屈」という記述もありました。また、泳げないから教師が授業時間外に教えたなら良いという意見がある一方で、授業時間以外に泳ぐ時間を設定すること(例えば補習の水泳など)、居残りということに対しては、否定的な意見も見られました。

・授業ができる子ども中心に展開され、できない子どもはそのままにされる経験をする学生もいて、できない子どもに目を向けることの大切さについて言及していました。

・教師からの無理な課題を挙げていました。「10分間泳」「リフティングの宿題」「ラジオ体操を覚える」などの課題、「できるまで終われない」「一からやり直し」「出来なかったら全体責任」など体育独特の考えが今でも根強く残っていることが学生たちの指摘でわかります。

	体育教材・体育的行事など				教師の指導に関するもの		
	幼保	学心	合計		幼保	学心	合計
持久走・マラソン・早朝駆足	7	9	16	能力別・習熟度別指導	10	4	14
水泳	8	2	10	体育の評価	3	4	7
ドッジボール	5	0	5	体育の服装	1	4	5
跳び箱	4	1	5	男女別・選択制	4	4	8
集団行動	2	2	4	体育座り	0	3	3
組体操	2	0	2	教師の体育的知識、技能	2	1	3
マット	2	0	2	出来ない子へのサポート	1	2	3
バスケットボール	0	1	1	無理な課題	0	3	3
柔道	0	1	1	教師の叱責	1	1	2
ダンス	0	1	1	出来る子中心の授業	0	2	2
ラジオ体操	1	0	1	発表会のための体育	1	0	1
テニス	1	0	1	教材配列・年間計画	0	1	1
剣道	1	0	1	待ち時間が多い体育	0	1	1
運動会	1	0	1				
相撲	0	1	1				
合計	34	18	52	合計	23	30	53

## ■教材・学習内容に関すること

### 持久走・マラソン大会・半袖半ズボン

- ・小学校の頃、強制参加のマラソン週間のようなものがあつた。体力をつけるため、寒さに負けないためなどを理由にしていたが、私にとってはとても苦痛な時間だった。自由参加とか、自分たちのできる範囲で頑張るなど、強制的にやらせるべきではなく、自主的な参加という形にしてほしいと思った。
- ・中学の頃は9キロ。高校は10キロ走るマラソン大会がありました。学校で持久力をつけるために行うのはまだ理解できませんが、大会にして順位をつけて学校行事の一つとして行う意味が分かりません。得意、不得意があるのに、全員同じことをさせるというのは現代に合っていないと思います。大会として運営するのをやめるか、自由参加にすべきです。
- ・持久走など走るだけの授業があつたが、すごくおかしと感じた。走るということは、サッカーやバスケットなどでも行うことができる。持久走になると休む人も多く、少ない人数の中でやる意味が本当にあるのかなと感じた。
- ・私がおかしいのではないかと思ったのは持久走です。「絶対5周走りなさい」「去年よりタイムを更新しなさい」と言われるのはおかしと思いました。泣きながら走る子や走った後に吐いてしまう子もいました。なぜここまでやらされるのか疑問です。自分の走る量は自分が一番よくわかってるのだから、自分で今日は何周走ろうなど、体調によって決めても良いのではないかと思います。そうすれば持久走がキツくて嫌なものではなく、楽しめるものではないかと考えました。
- ・小学校の「マラソン大会」を疑問に思っていた。その理由は、寒い真冬の中で、半袖半ズボンで長い距離を走る意味がわからない。仮に体力作りだとしても、上着を着用するなど温度管理は自分自身でやるべきだ。
- ・冬の寒い時期の体育で、半袖半ズボンを強要することについて、一体どんなメリットがあるのだらうと思っていた。最初から寒くなるのが前提の授業というだけで、子どもたちの意欲はそがれてしまうのではないかと思えてならない。せめて準備体操や体ほぐしの時間の間は、ジャージはウインドブレーカーを着用すべきだ。
- ・朝走ることにどんな利点があるのかも示さず、これを強制するのは絶対に不必要です。走りたい子どもたちに走らせたら良いことです。

### 水泳

- ・水泳の授業では、海や川で命の危険を減らすために泳げるようになるというのが授業の目的だと聞いたが。実際は他人と勝負し、タイムを縮めることを目的するような授業内容だったため疑問に思った。タイムの速い遅いでグループに分けられるのもその影響によるものだと思う。
- ・私が体育の授業でおかしと感じたことは水泳の授業です。その中でも「10分間泳」というものが一番理解できませんでした。なぜへとへとになるまで泳ぎ続けなければならないのか、なぜ足をついてはいけぬのか、とても疑問に思っていました。水泳の授業自体、意味をあまり感じませんでした。意味ある時間にするためには、溺れたときの対処法や着衣水泳などを教えるべきだと考えます。
- ・中学の水泳で、水泳部というだけで何も教えられずに、「好きなように泳いで」と言われたことだった。適当に泳ぐのではなく、「泳げない子や速くなりたい子に教えてあげて」「何々の見本を見せて」「何々で泳いで」とかならわかるが、放っておかれたのが何でだらうと思った。
- ・水泳の授業で、女子が体の事情で見学をすることに対して、授業時間外の居残りや課題を出されることがあり、少しおかしのではないかと思います。休みたくて見学しているわけでも、忘れ物をしたから休んでいるわけでもないのに、自由の見学に加え、補習まで課されるのはおかし。見学の感想や授業で扱っていたことをまとめるだけではいけないのかと感じた。
- ・プールの授業で、泳げない子を居残りさせるのは良くないと思う。苦手意識を持っている子をみんなにも分かるように居残りさせるのは、泳げないのも恥ずかしいと思うのに、もっと嫌いになると思う。評価に関しても、泳げる距離で評価するのではなく、泳ぎ方や友達との関わり合いなどの授業態度で総合的に見る必要があるのではないか。また女の子は入れない日があるにもかかわらず、「水圧があるから大丈夫」などと発言する女性の先生もいた。生徒の気持ちを理解するべきだと思った。

### ドッジボール

- ・ドッジボールはあまり良いとは思いませんでした。うまい子同士でパスをして、苦手な子にはボールが回らないからです。もっと人数減らして、みんなで協力できるようなゲームにした方が良いと思います。
- ・先生が「何したい？」と聞くと、大体が「ドッジボール」と答えるので、体育でドッジボールをやっているイメージがあります。遊びでやることが多いけど、体育の授業ではあまり先生が指導することはないなと思いました。そこがドッジボールの疑問だなと思います。

### 跳び箱

- ・跳び箱は高く跳べる方が良いとされているが、それは体育の授業で行うことなのか？高く跳べない子からしたらつまらないことで、体育が嫌いになる原因だと思う。体育嫌いになれば、スポーツも嫌いになってしまうだらう。指導する側の人たちが指導する教材を考え直す必要があると考える。高さを競うだけでなく、跳び乗る方法を考えたり、今までしてきたことが本当に正しいのか、見つめ直すことも必要だと思う。

## 集団行動

・体育の授業で集団行動があるのが理解できなかった。体育は身体を動かしたり、保健体育の知識を深めたりする授業であると考えてるので、集団行動のようなことはすべきではないと思う。ただでさえ厳しい日本の学校で、集団行動が必要ではないと私は考える。

・幼保から高校まで、すべての体育授業で毎回行われる「集団行動」は必要なのではないかと感じる。そもそも「みんな同じ行動をして、動きや言動で集団を乱したり、ズレてはいけない」ということは、個人のアイデンティティを潰していることであり理解できない。

## 組体操

・そもそも何を目的としたものがわからない。やるとしても、なぜ運動会という親のいる場なのか？私はその理由は、組体操＝高学年＝成長＝感動というものだけになっているのではないかと思う。他の、スポーツよりも何倍も怪我のリスクがあるものを、感動というものの欲しさのために、それを引き換えにしているのかと疑問に思うところがある。運動会で組体操をやらなくても親には子どもの成長は伝わる。成長や感動を伝えたいのであれば、下学年との合同競技や怪我のリスクをなくした競技にした方が良いと思う。

## マット運動

・私はマット運動をやる意味が分かりません。倒立前転などは間違えたら大けがに繋がると思います。首を痛めたりし、腰を痛めたりすることがあるので倒立前転だけは無くした方が良くと思います。マット運動ではもうちょっと安全なことをやるべきだと思いました。

## バスケットボール

・私は、中学時代、バスケットの授業を受けたとき、当時の担任が身長や見た目で判断して勝手にポジションを決めて試合をやらせていた。ちなみに私はポイントガードだった。これは身長がコンプレックスの人にとって、とても心を傷つける行為だと思う。生徒の意見を尊重した上でポジションを決めて試合をするべきだと思う。

## ラジオ体操

・高校1年の体育で、ラジオ体操を3、4回にわたって教えられた。ラジオ体操を2クラスで行い、一人でも乱れていると一からやり直しというものだった。そもそも体育の前の体操などは、怪我を防ぐために手足を伸ばせばよいものだと思う。そのため、私はラジオ体操ではない、その日の教材でよく使う筋肉をほぐすような体操を行うべきだ。バスケやバレーを行う日は、太ももふくらはぎを中心とした体操を行う。こうすることで自分の体のどこを動かしているのかが学ぶことができるようになるし、より怪我の防止になると思う。

## テニス

・高3で行ったテニスの授業で、先生から教わったのは「クロスで、相手のコートの奥の方を狙う」だけでした。どう打てばよく飛ぶか、全くつかめない場合はどこを直せばいいのか一切わからず、まさしく「できる子」が楽しむ時間になっていました。せかくの体育なんだから、できない子に対する配慮がもっと欲しいと思いました。

## 剣道

・中学校でやった剣道の授業。毎回なぜ剣道を学ぶのかその意味がわからなかった。また技もよく分からなくて、何のためにやっているのかと毎回思っていた。

## ■教師の指導に関すること

### 能力別・習熟度別の指導

▽習熟に反対 ▼習熟に賛成

▽私は水泳の授業で。50m泳げる子、泳げない子に分かれ、分けられた状態で練習することに対して疑問に思いました。泳げる子は、先生はあまり見ずに自由に泳いで、泳げない子たちを先生が指導するという形でしたが、泳げる子が泳げない子に教えたり、泳げない子が泳げる子を見て、どんなところを意識したらいいか、自分で考えたりすることが授業において大事になってくると思うからです。

▽水泳でできる子できない子を分けるのはなぜかと思った。他のスポーツはみな一緒に行うのに。それにプラス補習のように、泳げない子は絶対参加みたいな感じのものもあったのはなぜだろうかと思った。私はみんなと一緒に授業をするだけで良いと思った。海で遭難した時の対処法を習っていたわけでもないから、そこまで必要なかがわからない。水泳の授業では、もっともう少し実用的なことを取り入れることだと思う。

▽できることできない人で分かれて学習することです。私は水泳以外は、できない人の枠で授業を受けていました。できる人はどんどんレベルの高いことを行うのに、自分だけが伸びないという嫌な思いをしたのです。そのため、私はできる人、できない人を半々にして授業を受けるべきだと思います。アドバイスをし合うのです。できない人であっても観察することでできるよ

になります。うまいところを盗むことができます。できる人は自分と相手で何が違うのかを見つけ、お互いに良い効果がある授業になるのではないかと考えます。

▼今の体育では能力別の指導はありません。その子の可能性を伸ばすためには、一人一人に合った指導をするためにもレベルに合った指導を展開させていくべきだと考えます。

▼体育の授業は、運動が得意な人はすごく楽しいけど、運動が苦手な人からしたら苦痛という声を聞いたことがある。部活動などに所属している人がいれば、さらに実力差は広がると思う。体育はその人たちすべてを同じ土俵に立たせて行うので、運動が苦手な人からしたら、ただただつまらないと感じるだろう。たった一ヶ月ほどで上手くなるわけでもないのに、授業では実力差に分けて、同じくらいのレベルの人と行うようにすればよいのではないかと思う。

▼水泳はクラス別の方が良い。できる人とできない人に分けることで、効率よく練習ができるので、他の授業でも行うべきだと思う。一緒にするとできる人には退屈である。

▽小学校のマット運動の時、「苦手な人は端で練習しましょう」という感じで、できない人を置いてけぼりにしていたことがあった。今思えば少しおかしいと思った。苦手な人やできない人は、「なぜできないか」「できる人と何が違うのか」がわかることが大事である。ただできないから次のステップに進ませない、難しい事をさせないのではなく、「なぜできないのか」「できる人とできない人は何が違うのか」を丁寧に教え、子どもに寄り添う必要があると思った。

▽小学校の頃の跳び箱は、基礎から始めていくのかなと思いきや、先生が跳び方を見せ、すぐにグループに分かれて実践。できる子から上のグループへ上っていく。跳べない子たちは孤立。楽しくもない授業を受けさせるだけだった。因みに、先生は上のグループにひっつき、跳べた子を褒めることしかしない。今、保育教育を学んで、考えてみたらおかしな授業だったと感じた。まずは基礎を養う。ある程度みんなのレベルが上がっていったら実践。うまい子がうまくできない子に教えてあげるようなグループ学習が必要だと思う。

▽小学校の時、跳び箱や測定の練習の時に、先生ができない人たちのグループにはおらず、なぜかできる人たちの所に行っていたことがおかしいと思いました。できる人たちの形を更にきれいにするためだということはわかりますが、ほぼ一時間ずっとそこにいました。たまに、できない私たちの所に来たと思ったら、少し教えたり見たりして、すぐに行ってしまいました。今一番教師の力が必要なのはどの人たちなのかということを、教師はわかる必要があると思います。

▽小学校の鉄棒の授業では、できる子はできる子、できない子はできない子で分かれて行っていた。私は体育の授業も差別化せず、みんなで協力して授業を行うべきだと考える。

## 評価

・授業で試合を行って、得点が高いと成績が良かったり、スポーツのできる人が良い成績になったりすることはおかしいと思った。得点でなく、ゲームの工夫や話し合あったことなど、チームワークを重視した方法で評価することで、スポーツが得意ではない人も体育を嫌いになることがなく、学べるのではないかと考える。

・体育の授業での実技テスト。体育の成績をつけやすくするためであることはわかるが、それによって、スポーツの得意不得意で成績がつけられ、実力の差が開く。これは、モチベーションの低下につながる。できることを評価するのではなく、やる気の評価すべきである。教師はもっと楽しめる計画を立てるべきだ。

・習い事による運動経験や基礎能力に差があるのに、評価基準が同じことはおかしいと思う。また運動部だからという教師の偏見もあるように思える。水泳の授業の話でもあったが、習熟度別の対応や、できる人とできない人で教え合うことが子どもにとってとても大切な経験になると思う。できるようになったかの評価は、授業の1回目からの変化を基準にすれば良いのではないかと思う。

## 男女別の体育の授業・選択制

・女子はテニス、男子は柔道と。同じ教材をしないことに疑問があった。男女別でするのは評価の付け方に差が出るためだと思うのだが。今はジェンダーが問題となる時代になって。スポーツの授業は男女混合ですべきだと思う。そのためには技能を評価するのではなく、スポーツへの関心や意欲を大部分とした評価をすれば、男女混合であっても問題はないと思う。

・高校の時、男女別で授業を行っていた。他の教科では男女一緒に行うのに、なぜ体育だけが別々になっていたのか疑問に思った。私は、高校時代、部活でサッカーをしていたので、男子と一緒にサッカーをしたい気持ちがあった。また体育は多くのコミュニケーションをとることができる教科だと思うので、生徒同士の交流にも役立つのではないかと思った。保健のような性にまつわる授業では生徒のプライバシーを守るために別々に授業をおこなうことは必要だが、体を動かすような体育の授業では男女混合でやることを提案したい。

・中学校では普通の授業は男女別で内容もバラバラだったり、場所も違ったりするのに、なぜか水泳だけはみんな一緒に受けていました。私はそれがとても嫌でした。特に水着が指定されていたので、もう少し露出の少ない水着の方が良かったと思いました。

## 体育座り

・学校の課題として体育座りがある。場所をとらない手の位置が安定するなどの利点があるが、お尻や腰を痛めやすい座り方でもある。しかし、学校ではなかなか見直されない。一つの座り方が標準とされることで、体にとってより良い座り方が使えないというのは問題だろう。実際に子どもたちへの身体への負荷がどうなっているのかを考え、現場レベルで柔軟に対応して行くことが重要であると思う。

### 教師が体育の専門性を

・私は小学校で体育の専門教師をつけるべきだと考えます。小学校の担任の先生は運動神経が物凄く悪く、見本を見たときも、疑問に思ったことが何回もありました。体育の目的が技能だけでないのは分かりますが、全く出来ない人からの指導で何が身につくのかなと思います。中高と体育の先生がいるように、小学校にもそれを導入すべきだと考えます。

・担当する先生が、技術について説明するだけで、的確なアドバイスがもらえず、苦手意識を持っているマット運動です。怪我をしないか見る必要はあるけど、コツやアドバイスを具体的に提示してもらえなかったことがあるので、指導する先生の動きのポイントの知識など足りていたのかなと考えます。動きには指導の系統性がきちんとあると思うので、教える立場として他者認識をさせたり、自身の知識が求められたりすると思います。

### 出来ない子へのサポートがない

・私は小学校の時、跳び箱が全く跳べませんでした。跳べる人はどんどん高い段を跳んで行き、先生も高い段になると危ないと思っているので、そっちばかり気にしていました。私のような跳べない人はすごくつまらない授業でした。どうして跳べる人を見て、跳べない人をそのままにするのだらうと思いました。なので、私は改善するためにはいくつかのグループを作り、できる人とできない人を一緒にして教え合いをすれば良いのではないかと考えました。

・体育で成績をつけるのに、できない子への具体的なアドバイスがなかった。できる子だけどんどんステップアップして行き格差が生まれていたことだ。先生を増やすなどして、一人一人に寄り添える時間を増やすか、できる子ができない子に教えると時間を作るなどして改善すべきだと思った。

### 教師の無茶な課題

・高校の授業の時に、サッカーの課題で「リフティングを家で練習してきてください」と先生に言われた。私はサッカー経験者なので家にボールがあるのだが、サッカー未経験者の人はどのように練習したらいいのだらうと疑問に思っていた。授業内での練習時間を増やしたり、放課後に練習時間を設けたりすると良いと思う。

・「準備運動を覚えてくる」という課題はおかしいと思った。なぜなら体育委員が前で見本を見せてくれているのに、なぜやらなければならないのか。そして、準備運動を全員の前で発表するというのも少し違うと思った。

・体育授業の中で「できるまで終われない」という考えはなくすべきだと思う。小学生の頃、逆上がりができない子がいたが、先生はその子に対してできるまでやり続けろと厳しく指導していた。成功するためにやり続けることは大事だが、できないからといって責めるのではなく、手本を見せたり、今日はここまでやろうと区切りをつけたりすることが必要だと思う。

### 運動の得意な子どもだけが楽しむ体育の授業

・私がおかしいと感じるのは、教師が運動の得意な子どもを優遇しすぎているということだ。運動には必ず向き、不向きがあるが、教師は得意な子ども中心の指導をしており、サッカーにしるやバスケットにしる、運動が苦手な子どももパスなどもらえず、ただそこに立っただけという状態の人を何人も目にしてきた。そして、そのことについて教師は一切指導しなかった。これを改善するためには、試合中に全員にパスを回す必要があるルールを作ることや得意な子どもが苦手な子どもをどのようにカバーするのかなどを課題にした学習計画を教師が立て、それについて評価する方法をとった方が良いと思う。

・私は上手な子どもだけが楽しめる体育に疑問を感じます。苦手な子どもの中にも運動が好きという人もいるのに、苦手な子どもがチームに来ると嫌な目で見られるのはどうかと考えます。また、そのような配慮をしない先生も同様です。なので、チームバランスが平等になるように、最初からうまい子同士でグループを作らせないことや苦手な子どもも楽しめるような教師側からの声かけが大切だと考えます。

### 教師からの叱責

・保育所に通っていた時、体操で体が硬く、周りの友達のように柔軟ができず、私にいつも怒鳴ってくるタイプの先生がいました。私はその先生に怒られるのが怖くて体育に参加しなくなり、自分に自信がなくなり、常にマイナス思考になってしまいました。もしあの時、体操の先生が違ったら、もし出来るまで丁寧に教えてくれたら、私はマイナス思考にはなってしまうことはなかったと思います。逆の立場になったら、私のような思考の子を、一人でも減らせるような保育者になりたいです。

### 待ち時間の多さ

・これまでの体育の中での課題として、待ち時間多くなるようなスポーツの時に、どう学習するかが大切だと思う。ただ、待っているだけでなく、やっている試合について先生が解説を入れたり、「今の場合、この辺にいた方が良かった」などのアドバイスを入れることで、待ち時間でもより学びにつながると思う。

### 学習指導要領に書かれたことだけを行う教師

・体育教師の中には学習指導要領に書かれたことをただやってるだけという強者がいる。教材の中身を研究し、系統的な指導が必要である。